



# Let It GO♪ ありのままの

# 泉北生



**高校祭 体育の部の思い出**  
生徒会長 3年7組 堀川 友恵

きつと多くの生徒が、今年の体育祭で心配したことは、天気のことだろう。私も、週間天気予報を見るたびにため息をついていた。前日の予行ではなんとカ持ちこたえたが、準備では雨がパラつき、少しバタバタした前日となった。そして、当日。朝早くに家を出ると、今にも降りそうな空で、とても不安になった。

午前の競技は着々とこなし、みんなのテンションも上がっていった。お昼前、このままでは終盤頃に大雨になる、と予報されたのでお昼休みを大幅に短縮し、教員リレーを抜かなければならなくなった。お昼休みが抜け、応援合戦が始まった。前日に、応援団長が呼びかけた、てるてる坊主大作戦が、なんとか天気をもたせてくれるだろうと信じて午後6部に突入した。

結果的にすべての競技を行うことができた。天気だって、みんなが願えば変えられるのかもしれないと思った。そんな体育の部だった。

**高校祭 体育の部「応援団へ！」**  
3年5組 田中 雄飛

6月4日体育祭がありました。天気予報は雨でしたが、みんなの気合いでなんとか雨はふらずにすみました。気持ちは、最高です。まあそんなことはさておき、僕は今感謝の気持ちでいっぱいです。もちろん、応援団の活動に携わってくださった先生方には感謝しております。しかし今一番感謝しているのは、応援団員、特に副団長の坂君、佐藤君です。これらが副団でよかったとおもいます。色々ありましたが、かえって良かったです。僕を助けてくれました。僕はこの二人にくらべて団長にふさわしい存在だったか分かりませんが、二人は副団にふさわしい存在でした。本当にありがとう。そして応援団員、君たちのおかげで本当に楽しく、良い思い出になりました。ありがとう。文章書くのヘタですいません。気持ちは大分込めました。ではありがとうございました!!

**高校祭 体育の部 最高の思い出**  
3年3組 本脇 夢翔

高校生活最後の体育祭を最高の思い出にしてくれたのは国際応援団のみならず、団長をやらせてもらえることになって、初めは楽しみに思っていたのが大きき副団の二人と応援団らしい活動をするのが楽し過ぎて浸ってしまい、家でも応援団のことについていっばいでテスト勉強が手につかなくなったりで苦しんだりもしました。毎年の応援団の雰囲気とは違ってもいい感じだったと、見る側にも楽しんでもらえるようなパフォーマンスにしたいと目標を高く持っていたこと、たまにくれる期待の音がプレッシャーにもなりました。練習が始まると、思ってた以外のことでつまづきました。それは、「自分のイメージしたものの考えを伝えることの難しさ」と「どのようになれば自分の話や行動に常に興味を持ってもらえるか」です。毎日当たり前のようについている授業も、先生方はそういうことから経験してきたのかと気づいた時、経験値の差を改めて感じ、見習いたいと思いました。応援団の顧問をしてくださった先生方のおかげで土・日練習もすることができました。自分の意見を伝えるために多くの人の支えが後押ししてくれていることに改めて気づきました。いつもは気づかない暖かい目や、友達の存在の大きさ、「ありがとう」という言葉に何度もパワーをもらったり、やりがいを感じさせてもらいました。団長、副団やめた後、三人で泣いた苦しかった時間も今か思うところの出来事です。忙しく苦しい期間の中、この時は、その充実も気づかず、終わりを探してしまいます。でも、この経験を今、この年の時期に体験できたから、今からの人生に絶対良いように生きると思っています。こんな大きな経験をありがとうございました。

## クラスマッチの思い出

3年4組 西垣 竜暉

「いけいけ! ナイシュッ!」歓声が体育館を包み込む。「よっしゃ!」僕のクラスのバスケットボールチームは優勝した。この体験で思ったことは仲間と団結し、目標を成し遂げたり、失敗したり、一喜一憂することは素晴らしいということだ。三年生にとっては数少ない行事のひとつでした。勉強やクラブなどの両立が本当に大変な中で、目の前に与えられている行事は全て精いっぱい楽しみたいというのは、贅沢で欲張りかもしれませんが、僕はそれでいいと思います。ひとつひとつの思い出が点としていつかつながり、将来を創るのだと思います。そして僕は今回のクラスマッチでいい点を築くことができました。



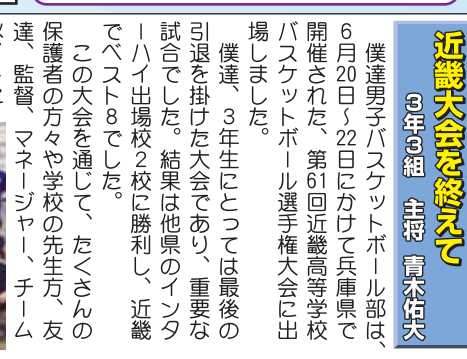
男子	女子
ドッチボール 2-7	ドッチボール 2-3
サッカー 1-7	バレーボール 1-4
バスケットボール 3-4	バスケットボール 3-4

**近畿大会を後にして**  
3年3組 主将 青木佑大

僕達男子バスケットボール部は、6月20日、22日にかけて兵庫県で開催された、第61回近畿高等学校バスケットボール選手権大会に出場しました。

僕達、3年生にとっては最後の引退をかけた大会であり、重要な試合でした。結果は他県のインターハイ出場校2校に勝利し、近畿でベスト8でした。

この大会を通じて、たくさんの方々の応援、監督、マネージャー、チームメイトに支えられてここまでやってこれたということに改めて感謝しました。たくさんの方々の応援、ありがとうございました!



## 文化行事を鑑賞して

1年3組 峠 翔太

僕はミュージカルを観て、ブツダから学べるものが沢山あると感じました。ブツダは「人が必ず死ぬ」ということに対し「当たり前だから」で片付けず、地位も名誉も捨ててその意味を探し続け、最後には仏教という偉大な宗教を生み出した。僕たちの生きる社会はイジメ等の大きな問題を抱えています。僕だから対し「当たり前」の片付けるのではなく、ブツダのように「なぜそんなことが起こっているのか」という問いを、問題に正面から向き合いたいと思います。



3年1組 山崎 萌果

私はトミーという十五歳の男子を受け入れました。彼はとても礼儀正しく、どんな食べ物にも挑戦してくれました。期間中は一日中一緒にいて、ずっと英語を話せる環境でした。彼は自転車に乗るのが久しぶりだそうで、バスで普段登校するそうです。「うまく乗れない!」と言いつつ登校し、その日の授業の感想を話しながら下校しました。聞きとれない時は「もっとゆっくり!」とたのんでわかるまで聞き返しました。三年の選択科目で、ALTのいる授業を選択できなかった私にとって、英語で会話をするととても貴重な機会を与えてもらいました。受け入れをして感じたことは、「もっと話せるようになりたい。そして、やっぱり英語って楽しい!」ということです。もっとも英語で自分のものができるようになっていきたいと思います!



2年1組 高柳 太郎

国も言葉も違う人達と僕らを繋いでいたのはアニメとゲームでした。最初はお互い緊張していましたが、そのトピックについて話すと一気に距離が縮まりました。台湾では今「進撃の巨人」や「パズドラ」などが流行っているということを知り、すごく盛り上がりました。このように日本の文化が外国でもよく知られている事がとても嬉しかったです。また、片言の英語と身振り手振りでコミュニケーションを取ったことも楽しかったです。とても短い時間でしたが、日本とそう離れていない「国」台湾の高校生たちとの交流はとても良い経験になりました。

